聖書神学舎通信

Japan Bible Seminary Newsletter

No.200
2025.6.1

巻頭言
Greeting

× 赤坂 泉
Izumi Akasaka
聖書神学舎 校長

Profile

1959年生まれ。三重県伊勢市での16年余の牧会奉仕を経て、2003年度より聖書神学舎専任教師として奉職し、2017年度から聖書宣教会・聖書神学舎の主任牧師・校長となる。

聴き分けて、従う

「確証バイアス」といって、自分に都合の良い情報ばかりに目を向け、反対の意見や情報を無視しがちな認知傾向が知られています。程度の差はあるにせよ、これを全く免れるという人はいないでしょう。近年はフィルターバブルやエコーチェンバーの危うさにも警鐘が鳴らされますが、偏った、また歪められた情報に基づいて判断する傾向が日常に侵入し、拡大して、今や広く世界を覆っているように感じます。

これが聖書に向かう態度にも影響していないでしょうか。みことばを聞いても選り好みして、結局、自分の直感に基づいて選択する。預言者ヨナを思い出します。「立ってあの大きな都ニネベに行き、これに向かって叫べ」(ヨナ書1章2a節)という明白な命令を嫌って、主に背いて逃げ出したヨナのことです。彼は、敵国アッシリアを神があわれみ、許すことを予測し、それを好みませんでした。自分の経験と価値観に照らして、自分の直感を、主の命令よりも上位に置いたのです。このヨナにも似た態度を自分たちの内に発見して怖くなることがありませんか。

いま、私たちを取り巻く環境は激しく変化を続けています。「情報」の持つ意味や影響力は、過去に例を見ない速度と深度で拡大し、「民主主義」をゆるがせにし、地政学的緊張を高めています。旧来のマスメディアが全面的に信頼できる情報源だったとは言いませんが、いま、ファクトチェックも疎かで、編集者の目も手も介さない乱雑な情報が世間に溢れている現実に、もっと警戒する必要があるでしょう。口コミが重用され、悪用される時代です。根拠が示されなくても、様々な認知バイアスに支えられて、SNSが選挙を動かし、世界情勢を動かす時代です。生成AIによる情報が確証バイアスを強化し、分断を加速させる、そのような世界になって来ています。

改めて、情報に接する私たちの姿勢を吟味しましょう。神の民は、目に見える現実を超越する視点を教えられています。近視眼で動揺したり、難しい現実に振り回されたりすることもあるとしても、神の視座から、神の摂理を信じて、世界を見つめることができます。そこにこそ私たちの平安と安定を見出したいのです。

神の声を聴こうとする者は、時代の影響に敏感でありたいと思います。聖書と神学の周辺に溢れる乱雑な情報を直感と好みに応じて好きなように採用して聖書を読み解く姿勢や、偏りを承知の上で特定の主題ばかりを追いかける姿勢などを是としてしまう風潮を警戒しましょう。

幸いなことに、神は、背いたヨナを懇ろに取り扱われました。「情け深くあわれみ深い神」は目を留め、介入し、許して立ち上がらせ続けてくださいました。神が「怒るのに遅く、恵み豊かで、わざわいを思い直される方」であることに、感謝を新たにさせられます。私たちは、この神に信頼して、神の視点で現象を見ることを追求したいと思います。聖書と真っ直ぐに向き合って聴き分けた神の御声に、誠実に従いたいと思います。神の祝福を信じて。

No.200 Topics

- p03 新入生
- p04-06 2024年度卒業生
- p07 卒業生を迎える教会の声
  新入生を送り出す教会の声

みことばに自分を委ねて

伊藤 暢人
Nobuhito Ito
聖書神学舎 教務主任

すると、シモンが答えた。「先生。私たちは夜通し働きましたが、何一つ捕れませんでした。でも、おことばですので、網を下ろしてみましょう。」

（ルカの福音書５章５節）

「深みに漕ぎ出し、網を下ろして魚を捕りなさい」と言われたとき、シモンには「やっても無駄です。もう一晩中やってきました」と答えることもできました。しかし、彼はそうは答えません。主の「おことばですので」、そこに自分を賭けて、従いました。献身とは主のおことばに自分を委ねて従うことと、いつも教えられます。

学舎近況

３月に９名の卒業生を送り出し、４月には６名の新入生を迎えました。休学を除いて在校生16名は数年前にあったのと同じ最小規模ですが、それはそれで、研修生たちはいつものように元気にやっています。皆様のお祈りとお支えに心から感謝いたします。卒業した９名、また新入生２名の証しを今号でお届けできますことを嬉しく思います。

今年度特筆すべきは、研修生の男女比逆転です。男性７名に対して女性９名という逆転は聖書神学舎史上初のこと。かつての卒業生には考えられないことでしょう。一方で聖書科は隆盛で、本科９名に対して聖書科が７名。教会音楽専攻に２年続けて学生が与えられたのは何年振りのことでしょうか。

教師・講師のために

教師陣の中では鞭木先生が教師としては働きを終えました。しかし、科目担当の講師や夏期研修講座は継続して受け持ってくださいます。校長職をはじめ重責を長年にわたって担ってくださったことに感謝するとともに、もうしばらくの間、お力添えをいただきます。ほかにも、それぞれの事情で働きを一時的に離れたり、退かれたりする先生がたがあります。多くの先生がたによって、学舎がいつも支えられていることを感謝します。

反対に、前号でご紹介したように新しい講師陣５名も今年度から加わってくださっています。そのようなこともあり、春には教師・講師含めて21名が集まって１日を共にし、学舎がこれまで大切にしてきた聖書信仰や受け継いできた理念を確認する時を持ちました。みことばへの変わらぬ信頼を持って、今後も歩みを進めてまいります。

クリスチャニティ・トゥデイの記事

ところで、３月にアメリカの雑誌『クリスチャニティ・トゥデイ』で日本宣教のことが特集されました。学舎の赤坂校長や研修生のインタビューも登場し、ほかにも卒業生や関係の先生がたが多々登場し、私たちにとっては実に親しみのある記事でした。

記事のタイトルは「成長は良い。サバイバルもまた良し (Growth Is Good. Survival Is, Too)」。作家の遠藤周作によって「沼地」と表現された日本宣教ですが、神様は日本をあきらめておられない、と記事は締めくくられていました。ならば宣教は、単に人数を拡大することに捕らわれる必要はないと思わされました。サバイバルすることがようやくの日本の教会であっても、地道にみことばに聴き、種を蒔き、説き明かし、人を育てていくことも、価値あることと信じます。その中で、リバイバルを祈り求めます。神様の大きなご計画の中で学舎のできることはごくわずかですが、主のおことばに身を委ねていきたく思います。

02 新入生 New Students

左より 福留、庄山、伊藤、石川、菅野、髙木

氏　名	出身教会		奉仕教会
聖書神学舎本科 [2名]			
石川（いしかわ）　賢汰（けんた）	日本福音キリスト教会連合	湘南ライフタウンキリスト教会	湘南ライフタウンキリスト教会
庄山（しょうやま）　奈津実（なつみ）	日本福音自由教会協議会	東京センターチャーチ	東京センターチャーチ
聖書神学舎聖書科 [4名]			
[聖書専攻]			
伊藤（いとう）　聖香（せいか）	日本福音キリスト教会連合	永福南キリスト教会	永福南キリスト教会
菅野（かんの）　基似（もとい）	日本福音キリスト教会連合	湘南ライフタウンキリスト教会	たまプラーザキリスト教会
髙木（たかぎ）　真悟（しんご）	福音伝道教団	高崎キリスト教会	高崎キリストチャペル
[教会音楽専攻]			
福留（ふくどめ）　優子（ゆうこ）	日本福音キリスト教会連合	千歳烏山（ちとせからすやま） 光の子聖書教会	千歳烏山 光の子聖書教会

神様の尊いご計画

庄山 奈津実

「あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を与える。」（エゼキエル書 36 章 26 節）

将来の歩みを祈る中で教えられたことは、神様とみことばへの畏れです。神様は近づくことが許されないほど至高にして偉大な方であることを知ると同時に、私は自分の驕り高ぶりを明らかにされ恥ずかしくなりました。また、教会奉仕でみことばを語ることの責任の重大さを軽んじていたことに気づかされました。

しかし、神様は御子の贖いによって私の罪を赦し、新しい霊を与え、造り変えてくださいます。そして今、福音を宣べ伝えるために整えられる必要がある私を、神様が聖書神学舎での学びへと召してくださいました。

感謝と喜びを持ってこの学びと訓練に仕えていきたいです。また、教会が祈りと大きな励ましをもって、送り出してくださっています。このことを覚え、神様が与えてくださる一つひとつの歩みを大切にしていきたいです。

神のご計画にしたがって

石川 賢汰

「神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。」

（ローマ人への手紙 8 章 28 節）

私に献身の召命が与えられ、妻へそのことを打ち明けた時には、夫婦間で霊的一致に至りませんでした。それから神様のみこころを求め、毎日夫婦で祈り、みことばに教えられました。神様は、私たちの祈りに分かり易く応えてくださり、全ての道を整えてくださいました。

召命は神様のご計画であることを確信し、すべてのことをともに働かせて益としてくださる神様に委ねつつしたがうことがみこころであると、上記のみことばを通して私たちに信仰の一致が与えられました。

愛に富んでおられる主に心から感謝いたします。また、送り出していただいた教会と祈りに覚えてくださった愛する兄弟姉妹にも感謝します。未熟なこの者の学びと訓練のため、小さい家族のためにお祈りください。

03 2024年度卒業生 New Graduates

左より、ガウブ、阿部、竹内、川口、石橋、田中、寺村、橘川、古庄

氏　名	出身教会	奉仕先	
聖書神学舎本科 [6名]			
阿部　祐	十日市場めぐみキリスト教会	日本福音キリスト教会連合	白岡福音キリスト教会
竹内　基喜	永福南キリスト教会	日本福音キリスト教会連合	かもい聖書教会
田中　理江 (旧姓:昼田)	吉備聖約キリスト教会	日本バプテスト教会連合	拝島バプテスト教会
寺村　幸雄	篠山福音自由教会	日本福音自由教会協議会	立川福音自由教会
川口　美琴	横浜山手キリスト教会		
橘川　弘毅	平塚福音キリスト教会	日本福音キリスト教会連合	蓮田キリスト教会
聖書神学舎聖書科 [3名]			
[聖書専攻]			
古庄　英司	横浜阪東橋福音教会	単 立	横浜阪東橋福音教会
石橋　美由紀	昭島めぐみ教会	日本バプテスト連盟	昭島めぐみ教会
ガウブ　ナタナエル	フランクフルト日本語福音キリスト教会	WEC国際宣教会	

多くの祈りに支えられて

阿部 祐

４年間の学びと訓練が守られたことを神様に感謝いたします。神様は、私の弱さをすべてご存知でおられるので、私たち家族のために多くのとりなし手を備えてくださいました。それは家族、母教会の十日市場めぐみキリスト教会をはじめとした関わりのある多くの教会、学び舎の教師、職員、机を並べた仲間たちです。またこの４年間、お会いしたことのない幾人かの方から、励ましの手紙を受け取ることもありました。その手紙に励まされたと同時に、私の知らないところでも、多くの方が祈り支えてくださっていることを意識させられ、神様に感謝いたしました。

４月からは白岡福音キリスト教会へ遣わされ、牧会の働きが始まります。さらなる主の助けが必要です。どうか、引き続き、主への賛美ととりなしの祈りを共におささげくださいますよう、よろしくお願いいたします。主の豊かな恵みに感謝して。

みことばに確信を持って語れる者に

竹内 基喜

私の入試面接は、その異色の経歴について質問が交わされていました。学んでこなかった人生丸出しでしたが、先生方は受け入れてくださいました。面接の最後、「竹内さんは、どのような献身者になりたいですか?」という質問に私は「みことばに確信を持って語れる者になりたい」と答えました。

しかし、私は「みことばに確信を持って語れる者になった」とは言えません。4年間の学びで私は、自分の常識や聖書観によって読むことへの恐れと、みことばがいつも真実であることを学びました。自分に語りたいことがあっても、みことばは真実なのだからいい加減な解釈をして語れない。そのように「みことばに確信を持って語るため」のスタート地点、基礎中の基礎を教わったのだと振り返ります。つまり、まだ私は基礎以上のものは何も知らないに等しいのです。それでも私は、この必要不可欠な基礎の学びを与えてくださった神様に心から感謝しております。

いのちの日の限り

寺村 幸雄

この4年間、神学舎において、多くのことを学び、経験させていただくことが出来た。祈りとみことばについては当然ながら、みことばに信頼して、原語を愛して、一語一語にとことん誠実に向き合われる先生方との出会いは、何ものにも代え難い。まさに聖書信仰そのものに直に触れた気がする。

特に奉仕教会の先生が、突然の病に襲われながらも見せてくださった「私と私の家は主に仕える」というみことばを体現されるその姿は、圧巻であった。命をかけて語られるみことばが放つ破壊力は、初代教会の時代に福音が拡大していった様を見せられているようで、みことばを語る上で、欠いてはならない大原則を教えていただいたような感覚である。

いよいよ現場に遣わされることになる。この地上で残された時間をどのように用いていただけるのか期待しつつ、妻と二人で臨んでまいりたい。

恵みによって

田中 理江

この四年間を振り返ると、ただ恵みによって乗り越えさせていただいたと感じます。

献身の思いが与えられた後、私はあまり深く考えずに神学舎に入学することを決めました。ですが、実際に研修生活が始まると、自分の能力や蓄えだけではやっていくことが難しい場所だとわかりました。

そんな考えの足りない私でしたが、主は多くの助け手と祈り手を備えていてくださり、学びにおいても金銭的にも必要を満たしてくださいました。それだけでなく、学びや奉仕の忙しさの中で自分にはもう無理だと挫けそうになった時、いつも主がみことばによって励ましてくださいました。

私が卒業できたのは、主の深い憐れみと恵みによることです。まだまだ未熟な者が、主のみことばを原文から読めるようにさせていただけたことは、身に余る賜物です。だからこそ、この賜物が正しく用いられるように、多くの方の益となるように、これからも謙虚に学び続けていきたいと願います。

御手に導かれる旅路

川口 美琴

慈愛に富み、あわれみに満ちておられる主の御名をほめたたえます。

全能の神であられる主が、無に等しいものをも選び、主の宣教のわざに参与するようにと呼び出してくださったことの不思議をおぼえております。

神学舎での3年間、必要な種々のレッスンを備えていてくださった主と、祈り支えていてくださった主の教会の兄弟姉妹に、心から感謝を申し上げます。

陶器師なる方が、造ってくださったこの器を、どのように、何のために、お用いくださるのか、御手のわざに目を向けて待ち望んでいるところです。

みことばによく聞き、また御霊が導いてくださることにお従いして、一歩ずつ進んでいくことができますように。

御声に従って行き先を知らずに出発したアブラハム、どのような環境にあっても主だけを恐れ礼拝したダニエル、捕囚地にあってもみことばを宣べ伝えたエゼキエルのように、信仰により、主をほめたたえつつ、この旅路を行くことができますように。

あらかじめ定められていた

橘川 弘毅

3 年前 60 歳で入学した時から今に至る迄、私の心の中は、自分への不安と主への信頼が、大嵐の高波のように短い周期で繰り返す日々の連続でした。不安の最たるものは記憶力の衰え、覚えた先から忘れていく自分に嫌気がさし、もう無理と何度も思いました。

そんな私を支えたのは、入学前に与えられたみことばです。「主があなたがたの前を進み、イスラエルの神が、しんがりとなられるからだ。」(イザヤ書 52 章 12 節)　このみことばに支えられ、客観的に道が閉ざされる迄、とにかく続けようと思い続けた3年間でした。幸い、あらかじめ計画を立てその通りに進める賜物を主は与えてくださり、なんとか記憶力と理解力の欠如を補えたようです。

3 年間の学びと教会での奉仕を振り返ると、「すべてをみこころによる計画のままに行う方の目的にしたがい、あらかじめそのように定められていたのです」(エペソ人への手紙 1 章 11 節) の通りでした。主に感謝します。

献身者は、出来ないことのために召されている

古庄 英司

「今日で最後」。最終授業を終え、11 年間通い続けた小作のドロローサ(小作台小前の Z 字形の急勾配の小径)を感無量で登りました。

在学中の 3 つの試み。①「学習障がい」。入会 3 年目に判明。治療を受ける。②「心房細動再発」。三度目の手術。コロナ禍と重なり、学び舎から遠のく。③「牧師辞任」。24 年間仕えた教会を辞任。何度も学び舎をやめようと祈りました。

しかし、ある日のチャペルで語られた、「献身者は、出来ないことのために召されている」。この一言が私を引き止めました。その背後には先生方の配慮、職員の方々、研修生の皆さん、同期の仲間、家族、教会の祈りと支えがありました。

「人にはできないことが、神にはできる」(ルカの福音書 18 書 27 節)。何とか聖書を原語で読めるようにされました。神学校は主からの召しを聞いた者、全てに開かれていると思います。私にとって神学舎は、あきらめたものを実現に導いてくれた幸いの場所です。主に栄光。

言い表せないほどの主の恵み

石橋 美由紀

この 4 年間は人生の中でも特別な期間でした。研修生活が始まってすぐに思わぬタイミングで妊娠、出産、そして初めての育児がスタートしました。人生も生活スタイルも激変しました。

慣れない育児と睡眠不足の中での研修生活と学び、そして教会では牧師夫人としての様々な奉仕があり、毎日目まぐるしく精神的・体力的にもとても厳しかったです。しかしその反面、自分の力ではなく、主に委ねることを実践を通して学ばせていただき、そして先生方や仲間たちの祈りによって沢山支えられました。学舎で毎日聖書や神学などをじっくり学び、主のみことばの広さや奥深さなどを味わえたことは、まるで大海原への旅に出たような感動の連続でした。

他にも書ききれないことが沢山ありますが、主のお導きによって、素晴らしい豊かな経験をさせていただき、そして一つ一つ乗り越えさせてくださったことに心から感謝しています。

福音が日本人の間でますます広まるように

ガウブ ナタナエル

「ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」

(マタイの福音書 28 章 19 - 20 節)

ハレルヤ! 皆さんのお祈りと励ましに感謝いたします。2 年間神学舎で学び、卒業することができたのですが、宣教師として日本で働くために貴重な学びができたと思います。また、日本の教会文化を新たに知る機会でもあったと思います。

8 年間海外に住んでいたので羽村の生活に慣れるのにだいぶ時間がかかりました。しかし神様がこの 2 年間を導いてくださったのだと深く噛み締めています。神学舎の研修生たちと共に学ぶことができ、教師たちにも支えられ、感謝しかないです。

福音が日本人の間でますます広まるようにこれからも祈り励んでいきたいと思います。

04 卒業生を迎える教会の声
From Churches Where New Graduates are Serving

寺村幸雄先生をお迎え出来て感謝

高橋 秀典
Hidenori Takahashi
立川福音自由教会 牧師

私たちの教会は 1989 年 10 月から立川の地で礼拝を始め、36 年間が経ちますが、その間、聖書神学舎から 15 名の奉仕神学生を受け入れることができました。距離的に近かったこともありますが、当教会に集う者たちにとっては極めて身近な神学校です。そしてこのたびその中から寺村幸雄、朋恵ご夫妻を当教会の後継牧師夫妻としてお迎えできますことを、主に心より感謝申しております。

私自身は 1989 年 5 月浜田山校舎の最後の卒業生で、その直後、立川での開拓伝道に携わり、35 年が経過した 2024 年 9 月の総会で、寺村ご夫妻の招聘が決まりました。2023 年 2 月の教会総会で私自身の三年間の定年延長が承認されましたが、その少し前から、何人もの説教者を次々にお招きし、役員の方々や役員経験者を中心に共に祈り、検討を重ねてきました。その結果、役員会の総意で教会総会に提案され、満場一致で招聘が決められました。教会員一同、心より感謝申しております。

先日の卒業式に当教会から参加した者たちが、卒業生の方々のお証しを聞きながら、神学舎の理念に心から感動しておりました。私自身も 36 年前の卒業式で、羽村の取水口から四谷まで続く玉川上水という上水路が 1653 年に開通したことを引き合いに、「私はこの神学校で、聖書の原典から福音という生ける水を汲みだして、東京に住む人々に提供するという、水汲みの方法を学ばせていただきました」という趣旨のことを語りました。私の誕生の丁度 300 年前に上水路が開通し、それから 336 年後の 1989 年に羽村の地での神学教育が始まっていることに、不思議な主の導きを感じております。

卒業生たちのお証しを聞きながら、神学舎の原点が変わることなく受け継がれていることに深い感動を覚えることができました。

（写真：総会でのインターン牧師就任式）

05 From the Sending Churches
新入生を送り出す教会の声

真理に属する者はみな、わたしの声に聞き従います。（ヨハネの福音書 18 章 37 節）

菅野 淳一
Junichi Kanno
湘南ライフタウンキリスト教会　牧師

主の聖なる御名を心より賛美申し上げます。
この度、湘南ライフタウンキリスト教会から 2 名が聖書神学舎への入学が許されたことを心から感謝申し上げます。少子高齢化の波もあり、献身者が起こされず、どこの神学校も定員割れと聞いています。ところが、なぜか主の導きのうちに 2 名の献身者を送り出すことになりました。いや、家族を含めれば、4 名を送り出すことになります。これは、教会にとって主の祝福であり、大きな喜びであります。

しかしその反面、若い方々を送り出す寂しさもあります。ここ 10 年の間に、この度送り出した 2 名を含めて 5 名の献身者を送り出しました。彼らはみな、教会において喜んで主に仕えておられました。人間的な見方をすれば、その姿を見る度に教会の将来を背負っていく方々と期待を膨らませていました。

ところが、主は、それをお許しになりませんでした。彼らは、主に喜んで仕える方々だからこそ、雑音に惑わされず、主の声をはっきりと聞き分けて献身の道を歩み出されたのです。

私たちの教会も主の声に従い、公同の教会にお仕えし、喜んで送り出したいと願います。

（写真：中学生が描いた教会正面）

聖書神学舎通信 No.200　発行者：小林 久実
〒205-0017 東京都羽村市羽西 2-9-3　Tel 042-554-1710 Fax 042-554-5562　www.bibleseminary.jp/　振替 00150-6-34971（聖書宣教会）

聖書神学舎モノグラフ『釈義と神学』

昨年4月に創刊した聖書神学舎モノグラフ『釈義と神学』の第２号を、この3月に刊行しました。いずれも毎年開催される夏期研修講座の講義録で、第1号「今、救済論を考える」に続き、第２号は「聖書から考える終末」がテーマです。限定数を印刷し各方面へ送付すると共に、ウェブサイトでも常時公開しています。ぜひ、ご一読ください。

刊行の趣旨

「聖書神学舎は1968年以来、夏期研修講座を続け、その成果を書籍化する努力を重ねてきたが、教職者向けに聖書言語を自由に用いながら学びを提供する必要も感じてきた。また夏期研修講座に限らず、様々な機会での聖書の学びを諸教会と共有したいという願いもあり、聖書の真理をこのモノグラフを通して分かち合いたいと願っている。・・・（中略）・・・聖書への信頼そのものが揺るがされている現代において、このモノグラフが聖書理解を深め、聖書信仰を強固にする一助となるなら、私たちにとって大きな喜びである。」（聖書神学舎モノグラフ『釈義と神学』第２号「緒言」より）

2024 年度決算と 2025 年度予算について

恵みに富む主の御名を賛美します。

聖書神学舎にある主のわざを覚えてお祈りくださり、お支えくださる諸教会、皆様を主に感謝しています。様々な変化に直面しながらも、主に託された働きが日々前進していることを感謝します。

財務の面では大変厳しい状況があり、当年度資金収支差額で449万円のマイナスとなりました。

振り返ると、2022年度決算で20数年来で初めて実質収支の赤字を見ました。2023年度は、皆様の力強いご祷援を得て、維持献金では2800万円の収入予算に対して3181万円をお献げいただき、想定していた取崩しをせずに70万円の実質黒字をもって決算し、大きな励ましをいただきました。2024年度は、維持献金の2667万円をはじめとして、主の豊かな供給にあずかりましたが、諸費高騰の面もあり、上記449万円の不足となりました。

2025年度も収支バランスは厳しく、引当金からの取崩しを400万円予算計上しています。研修生の人数減があり、また経費節減にも限界があります。諸教会、皆様にも経済的な闘いの大きいことと思いますが、神学教育・伝道者養成のためにお祈りくださり、お支えいただけますようによろしくお願いいたします。

皆様に主の顧みと祝福が豊かにありますよう、お祈りいたします。

(財務)